

鹿児島県始良市 子育て支援施設 視察報告書

1. 視察目的

少子高齢化が進行する中、地域における子育て支援の充実は喫緊の課題です。鹿児島県始良市は、子ども館「ちるどん」を核とした先進的な子育て支援策を展開しており、その具体的な取り組みを学ぶことで、本市(加須市)における子育て支援施策の向上に資する知見を得ることを目的とします。特に、多世代交流の促進、地域連携、そして利用状況に関するデータに着目し、その効果と課題を検証します。

2. 視察日時

令和 7 年 7 月 17 日(木) 14:00～15:30

3. 視察先

鹿児島県始良市 子ども館「ちるどん」

子どもみらい課

4. 始良市における子育て支援の概要

始良市は、「あいらっ子すくすくプラン」を策定し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を目指しています。その中核をなすのが、多機能型子育て支援施設である「始良市子ども館『ちるどん』」です。

【データ 1: 始良市の子ども・子育てに関する基礎データ】

- 年少人口(0～14 歳人口): 増加傾向にあり、令和元年(2019 年)には 11,160 人。令和 6 年には児童数(18 歳未満人口)が **14,022 人**まで増加する見込み。
- 出生数: 576 人(参考:全国 815 市区中 295 位)。出生率(人口 1000 人当たり)は **7.36 人**(参考:全国 815 市区中 64 位)。
- 保育園待機児童数: 令和 3 年度の時点では **91 人の待機児童**が発生、今回の視察時には 11 人と、今後の対策が課題となっています。

これらのデータから、始良市は子どもの人口が増加傾向にあり、出生率も比較的高いものの、保育園待機児童の課題を抱えながらも、積極的に子育て支援に取り組んでいることが伺えます。

5. 始良市子ども館「ちるどん」の特色



「ちるどん」は、子どもたちが安心して遊び、学び、地域の人々と交流できる場として、以下のような特徴を持っています。

5.1. 多機能型施設としての役割

- **乳幼児親子向け広場：** 未就学児とその保護者が自由に交流できるスペース。子育て相談や育児講座なども実施しています。
- **児童向けプレイルーム：** 小学生が放課後や休日に利用できる遊び場。多様な遊具や図書が充実しています。
- **地域交流スペース：** 子育て中の親だけでなく、地域の高齢者や学生など、多世代が集える交流の場を提供しています。
- **一時預かり事業：** 保護者の急な用事やリフレッシュのために子どもを預かるサービスです。
- **子育て支援コンシェルジュ：** 専門職員が常駐し、子育てに関するあらゆる相談に応じ、適切な情報提供や関係機関への連携をサポートしています。

5.2. 多世代交流の促進

「ちるどん」では、積極的に多世代交流を促すためのイベントやプログラムが企画されています。

【データ 2:ちるどんにおける多世代交流イベント実績(令和 6 年度一部抜粋)】

- **高齢者との昔遊び体験:** 地域のお年寄りを招き、けん玉、お手玉、こま回しなど日本の伝統的な遊びを子どもたちに教えています。年間 12 回開催され、延べ参加者数は約 300 人です。
- **中学生・高校生のボランティア受け入れ:** 夏休み期間を中心に、近隣の中学校・高校からボランティアを受け入れ、子どもたちと一緒に遊んだり、学習支援を行ったりしています。年間約 50 名の学生が参加しました。
- **地域団体との連携イベント:** 地元の NPO 法人やボランティア団体と協力し、季節ごとのイベント(クリスマス会、餅つき大会など)を開催しています。毎回 100 名以上の親子と地域住民が参加しています。

これらの取り組みにより、子どもたちは多様な価値観に触れ、地域の一員としての意識を育むことができます。また、子育て中の保護者にとっては、孤立感の解消や情報交換の場として機能しています。

5.3. 地域連携の強化

「ちるどん」は、地域における子育て支援のハブ機能として、様々な機関との連携を強化しています。

【データ 3:ちるどんの地域連携実績(令和 6 年度)】

- **保健センターとの連携:** 乳幼児健診後のフォローアップや、発達に課題のある子どもへの早期支援について、定期的な情報共有と連携を図っています。月 1 回の合同ケース会議を実施しています。
- **学校・幼稚園・保育園との連携:** 地域の教育機関と連携し、子どもの発達段階に応じた支援や、スムーズな進級・進学への移行支援を実施しています。年 2 回の連絡会議を開催しています。

- **医療機関との連携:** 小児科医による健康相談会の開催(隔月 1 回)や、必要に応じた医療機関への紹介を行っています。
- **地域のお店や企業との連携:** 地域のお店のスペースを活用した絵本読み聞かせ会や、企業による子育てイベントへの協賛など、地域全体で子育てを支える環境づくりに貢献しています。

これらの連携により、切れ目のない支援体制が構築されており、保護者が安心して子育てに取り組める環境が整備されています。

5.4. 利用状況と効果

「ちるどん」の利用状況は、地域の子育て家庭にとって不可欠な存在であることを示しています。

【データ 4:ちるどん利用状況(令和 6 年度実績)】

- 年間延べ利用者数: 約 80,000 人(開館日数 280 日、1 日平均約 285 人利用)
- 乳幼児親子向け広場利用者数: 年間約 45,000 人
- 児童向けプレイルーム利用者数: 年間約 25,000 人
- 一時預かり事業利用件数: 年間約 1,500 件
- 子育て相談件数: 年間約 2,000 件

アンケート調査(令和 6 年度実施、回答数 500 件)では、利用者の 95%が「ちるどん」の利用を通じて「子育ての孤立感が軽減された」「子育てに関する情報が得られた」「子どもが楽しんで遊べる場がある」と回答しています。また、地域住民の 50%が「ちるどんの存在により、地域の子育て環境が良くなったと思う」と回答しています。

6. 視察からの提言

始良市子ども館「ちるどん」の視察を通じて、本市(加須市)の子育て支援施策への示唆は多岐にわたります。

1. **多機能型子育て支援拠点の整備推進:** 「ちるどん」のような多機能型施設は、子育て家庭の多様なニーズに応える上で極めて有効です。本市においても、既存の施設を活用・改修

することも含め、より包括的な子育て支援拠点の整備を検討すべきです。特に、乳幼児期から学童期までを一貫して支援できる機能の拡充が望ましいです。

2. **多世代交流の促進強化:** 地域における子育て支援には、行政だけでなく地域住民全体の協力が不可欠です。「ちるどん」が実践しているような、高齢者や学生との交流機会を積極的に創出し、地域全体で子どもを育む機運を高める必要があります。ボランティア育成プログラムの導入や、地域団体との連携強化も重要です。
3. **切れ目のない支援体制の構築:** 保健、医療、教育機関、地域団体など、関係機関との連携をさらに強化し、妊娠・出産から子育て期に至るまで、切れ目のない支援体制を構築することが重要です。特に、発達に関する相談や支援については、早期発見・早期対応が不可欠であり、専門機関との連携を密にする必要があります。
4. **積極的な広報と情報提供:** 「ちるどん」の成功は、その機能だけでなく、利用しやすい環境づくりと積極的な広報にも支えられています。本市においても、子育て支援に関する情報の一元化と、SNS や広報誌など多様な媒体を活用した積極的な情報発信が求められます。
5. **データに基づいた効果測定と改善:** 始良市が利用状況などのデータを収集・分析し、施策改善に繋げている点は大いに参考になります。本市においても、子育て支援施策の効果を定量的に把握し、PDCA サイクルを回しながら継続的な改善を図るべきです。特に、保育園待機児童の問題など、具体的な課題解決に向けたデータ分析が不可欠です。

7. 結論

鹿児島県始良市の子ども館「ちるどん」は、多機能性、多世代交流、地域連携の強化を通じて、地域全体で子育てを支える先進的なモデルを示しています。今回の視察で得られた知見を活かし、加須市においても、子育て家庭が安心して子育てできる環境を一層充実させるべく、具体的な施策の検討と推進を図ってまいります。

令和7年 7月22日

加須市議会議員

栗原智之